



「盲目のクライマー」



「龍の国へ」



「メルとタラ」氷河融解」

氷河が融けて、いくつもの池ができる

美しい自然と、社会の矛盾

自然から文化、冒険、環境、民族問題までヒマラヤ山脈とその周辺国を題材にしたドキュメンタリーばかりを集めた「ヒマラヤ国際映画祭」が二十五日から京都、神戸両市で開かれる。「世界の風情に凝縮された自然や人の美しさ、そして社会の矛盾を伝えるユニークな映画祭で、日本を含む十四カ国の三十作を週間かけて上映する。

(八幡一男)

25日から京都・神戸で

ヒマラヤ国際映画祭

二〇〇二年、画期的なサッカーの試合が行われた。「グリーンランド対チベット」。チベットは難民による初の「ナショナル・チーム」。中国政府が横やりを入れるが、ゲームは始まり。

そんな内容の映画「チベットへのキックオフ」はデンマークの作品。エベレスト登頂を追った山岳ドラマ「盲目のクライ

マー」、ネパールの子どもボクサー(荷運び人)の生活苦と夢を描いた「コラと少年」、アータンを二輪車で走破する冒険モノ「龍の国へ」…。三十作の切り口は多彩だ。

ヒマラヤ国際映画祭は二〇〇三年にオランダのアムステルダムで始まり、〇六、〇八両年は東京でも開催された。今回

切り口多彩な30作、現実を凝縮



は、映像ジャーナリストらでつくるNPO法人(特定非営利活動法人)ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパンと京都の自主上映団体「シネマ・アサテイ」の主催で、京都、神戸で初めて開く。大半が関西系公開作だ。ヒマラヤ山脈は、八千

級の高峰が連なり、周辺の高地には大森林が広がる。一方で、森林伐採や氷河の融解など環境破壊が進んでおり、周辺ではチベット問題やカシミール紛争などが起きている。

環境部門の作品「メルとタラ」氷河融解は、溶けた氷河が湖となり、決壊して村をのみ込む地球温暖化の問題をルポしている。また「遊牧民と呼ばれて」は、中国の近代化に翻弄されるチベット族がテーマだ。一方「運命の高峰」「死の領域を越えて」では、聖地とされる山々の荘厳さと、その中で苦闘する登山家たちが描かれる。ヒマラヤ・アーカイブ

・ジャパン代表で、上映作「チベット難民」世代を越えた闘い」の監督でもある田中邦彦さんは「ヒマラヤはいわば、聖と俗が集約された、環境や人権などの問題をかかえる地域。地球の今を映画祭で見てもうければ」と話している。

映画祭の日程

会場と日程は、25、26両日(ウイングス京都(京都市中京区)。28日—5月8日は京都みなみ会館(京都市南区、5月25—6月1—3993)。5月2日—6日は、京都みなみ会館と並行して神戸映画資料館(神戸市長田区、078—754—8039)でも上映する。詳細は映画祭ホームページhttp://himalaya2009.jakou.com/へ。当日料金は1300円から。

ヒマラヤ国際映画祭

▶25—5/8 京都みなみ会館など



14カ国の30作品、順次上映

お薦めは「盲目のクライマー」



ドキュメンタリー通し「地球を考える」

世界各地から厳選したヒマラヤ地域のドキュメンタリー映画を通して、ヒマラヤ地域や世界が抱える問題を考える「ヒマラヤ国際映画祭」が25日から5月8日まで、南区の京都みなみ会館などで開かれる。テーマは「地球を考える ヒマラヤから考える」。14カ国から集まった30作品を順次、上映していく。

同映画祭は03年から毎年、オランダで開かれており、日本では06年と08年に、「ヒマラヤ・アーカイブ・

同映画祭は03年から毎年、オランダで開かれており、日本では06年と08年に、「ヒマラヤ・アーカイブ・

映画の舞台はブータン、中国、チベット、ネパール、インド、パキスタンで、地球温暖化や民族問題、経済格差などに鋭く切り込む作品から冒険映画や青春映画、ヒマラヤの雄大な自然を映し出した作品まで幅広いジャンルがそろっている。

「幸せとは一体何か…考える映画祭にしたい」



つてもらう。催しではスタッフが民族衣装に身を包む予定だ。広報担当で、映画祭の総会司会を務める西川敦子さん(写真下)は、「一人でも多くの人が、自分の生き方や地球の未来に目を向け、幸せとは一体何かを考えるような映画祭にしたい」と意気込む。

中でもお薦めなのが、目の不自由な男性がエベレスト登頂に挑む姿をとらえた「盲目のクライマー」(写真上)。氷河湖の決壊もたらす深刻な被害を追った「メルトダウン—氷河融解」、チベット難民の苦境にサッカーという視点から迫った「チベットへのキッ

温暖化や民族問題、自然…幅広いジャンル

あいあいAI 京都

(朝日新聞週間情報)4/15

「オランダ本国よりも盛大なイベントにしたいです」と、響さん。背後にあるのは、チベットやネパールはるかには見かけられるタルチョ。天・風・火・水・地を意味するそうです。撮影/田中幹人



関西初「ヒマラヤ国際映画祭」が京都で!

通常のロードショーでは見る機会がなくても、世の中には多くの優れた映画作品が存在しますね。この春、ヒマラヤが舞台の映画ばかりを集めた、とてもユニークな国際映画祭が京都で開催されますよ。映画祭運営事務局の綿(とぎ)明浩さんに、その魅力を聞いてみました。

地球のてっぺんから、世界を見つめ直す

我街発見

各地の映画を公開し話す

ヒマラヤ国際映画祭はオランダのNGO「マヤ・ア・カヤ・ネーデルラント」が03年からオランダで開催してきたもの。アジア、中国、チベット、ネパール、インド、パキスタンなどを舞台に、ヒマラヤの大自然や伝統文化を伝え、環境問題や各国の経済・政治問題についても考えさせてくれる作品がズラリ! 06、08年には東京でも開催され、関西では今回が初めて。

ヒマラヤ国際映画祭 WEST JAPAN 2009

●期間・会場: 4月25日(土)・26日(日)ニウイングス京都イベントホール(中京区東洞院通六角下ル)、4月28日(火)～5月8日(金)ニ京都みなみ会館(近鉄「東寺」駅西へ150m)●入場料: 当日1プログラム1300円、2プログラム2200円、3プログラム3000円(1プログラム＝2作品)●京都みなみ会館スケジュール(一例)

4月29日(祝・水) 正午「ミス チベットの悪いを運ぶ手紙」、午後2時「銃を取った女性たち」「尼僧の智慧」、午後3時50分「残すのは足あとだけ」「天空を駆ける」。5月2日(土) 正午「メルトダウナー氷河融解」「雪龍の国へ!」、午後1時55分「死の領域を越えて!」「アーダン―幸福への中道を行く」。5月3日(祝・日) 正午「運命の高嶺」「遊牧民と呼ばれて」、午後1時45分「天国の森」「盲目のクワイマー」

あれば、目が見えないのにエベレストに登る人の自由もあります。金作品を見れば、ヒマラヤがどこか一人目の前に現れ、ヒマラヤに抱かれようという気持ちになりますよ。ウィンクス京都と京都みなみ会館などを会場に、合計30本のドキュメンタリーを上映。日ごとのドキュメンタリーはあまり異なりという人にも、鶴さんが手押しするのには、秘境アートを二輪車で駆け抜ける冒険家たちの姿を享す『雪龍の国へ!』や、エベレスト登頂に挑戦する意志の力で感動を呼ぶ『盲目のクワイマー』などエンタメイベント要素を含んだアドベンチャー作品。また、環境問題の最前線をとらえた『メルトダウナー氷河融解』、チベット文化を美しい映像で切り取る尼僧の智慧がら『もろきまきめなぞう』。

「文化の多様性に驚きながら、本当の豊かさは何か、今の日本の価値観はこれなのか、と感じますね。1時間程度の短めの作品が2本立て、どこのプログラムが

多いので、気軽に足を運んでください。(響さん)

興味深いイベントも!

4月25日の初日には、ウィンクス京都とオランダ・セシエーが開かれ、3作品の上映や、雪原鏡たかしさんによるトーク・イベントもあり。雪原さんは、エベレストを眺望できるホテルを建て、濃霧にエベレスト登頂に挑み、ネパールで国境まで取得したほどの「ヒマラヤ人」。「きつと聖域の面白さをお話しますよ」と、響さん。26日は、4作品上映と、監督の田中邦彦さんを迎えてのトーク・イベント。また、京都みなみ会館でも期間中2回のミニトークを予定。問い合わせは、ヒマラヤ国際映画祭WEST JAPAN 2009運営事務局 03-07-03000000 31 (電話受付は午後7～11時)、京都みなみ会館 03-07-030000 1) 30903。http://himalaya2009.jakou.com/



「盲目のクワイマー」監督: マイケル・フラン・2003/アメリカ 75分



「アーダン―幸福への中道を行く」監督: トム・ヴェンデッティ / 2007/アメリカ 57分



「雪龍の国へ!」監督: シーン・ボワイト / 2003/カナダ 45分

ヒマラヤ国際映画祭 関西で

ドキュメンタリー30作上映

ヒマラヤ山脈周辺を舞台にしたドキュメンタリーを上映する「ヒマラヤ国際映画祭」が25日～5月8日、京都と神戸で開かれる。

オランダのNGOが2003年に同国で初開催。その後、日本にも運営事務局が発足し、4度目の今回、初めて関西で行われる。

「環境」「冒険」「政治・人権」「貧困・開発」「文化」の5部門で14か国の30作品を上映。ヒマラヤの現状と問題を多角的に伝える。

「メルトタウン-氷河融解」(英)は、温暖化で出現した氷河湖が決壊し、周辺の村が水没する様子を村人の証言などで伝える力作。ほかにイ



インド人ライダーがムンバイからチベットの高原まで旅する「天空を駆ける」(インド)＝写真＝や、ブータ

ンの山中にある村の郵便配達員が、首都まで10日以上かけて手紙を届け続ける姿を追った「思いを運ぶ手紙」(ブータン)など。

2作品につき当日1300円など。

◇

会場は次の通り。

25、26日 ウィンダス京都(京都市中京区)▽28日～5月8日 京都みなみ会館(同市南区)▽5月2日～6日 神戸映画資料館(神戸市長田区)

ヒマラヤ国際映画祭 25日開幕

は、ダライ・ラマへのインタビューも交え、世代間のチベットへの思いを浮き彫りにした「チベット難民 世代を超えた闘い」、インド人ライダーが平均高度4500mの地を旅しながら広大な自然やチベット文化、民族の日常などに触れる「天空を駆ける」11写真、政治の介入を受けながらもグリーンランドとの国際試合に臨むチベットサッカーチームの人間模様を描いた「チベットへのキックオフ」など注目作がずらり。

25、26日は京都市中京区のウィングス京都イベントホール、28日～5月8日は京都みなみ会館(☎075・661・3993)、5月2～6日、神戸映画資料館(☎078・754・8039)で開催。1プログラム(2本または1本)当日1300円から。詳細情報はホームページ(<http://himalaya2009.iakou.com>)で。

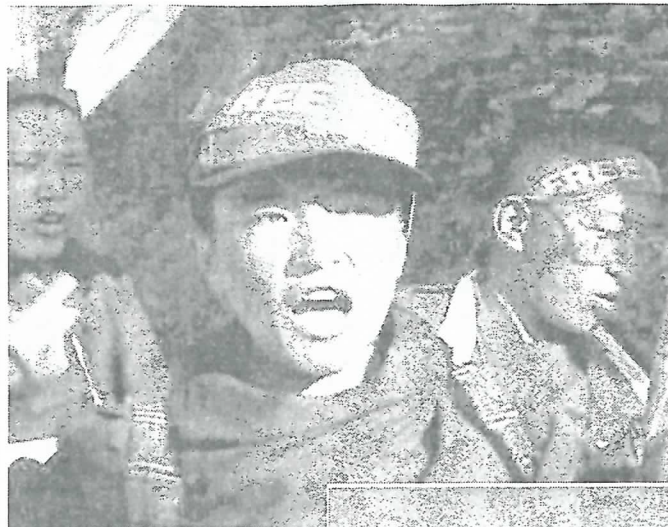
京都・神戸



ヒマラヤ、チベットの現状などを伝える「ヒマラヤ国際映画祭 WEST JAPAN2009」が、25日から京都、神戸で開かれる。環境や冒険、文化などをテーマにした計30作品を上映、ヒマラヤから発せられる美しくも力強い映像の数々を、身近に感じられる貴重な機会となりそう。

ヒマラヤの雄大な自然や民族の伝統、文化からチベット難民、環境、政治などの課題まで、さまざまなメッセージを届けるのが狙い。作品上映をはじめ、トークやミニコンサート、写真展などもプログラムで

自然、文化などテーマに30作



①「雷龍の国へ!」のシーン
②「チベット難民・世代を超えた闘い」のシーン



ドキュメンタリー映画を通して、ヒマラヤから現代世界の問題について考える「ヒマラヤ国際映画祭 WEST 2009」が5月8日まで、京都、神戸の両

温暖化や地域紛争テーマの30本

ヒマラヤ国際映画祭 WEST 2009

市で開かれる。チヨモランマ(エベレスト)がまたがる地域を舞台にした、地球温暖化や、地域紛争など多彩なテーマの計30本が上映される。

オランダのNGO「ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルランド」が03年に開始。06年に東京も会場となり、今年、関西で初めて開催することになった。

部門は「環境」「冒険」「政治・人権」「文化」など。インドで難民として世代を重ねるチベット人をとらえた「チベット難民・世代を超えた闘い」(02年、

日本)▽冒険野郎たちが一輪車でプータンを旅する「雷龍の国へ!」(03年、カナダ)▽カシミール問題を扱った「安らぎはいずこに?」(07年、インド)などを上映。舞台はネパール、チベット、インド、プータン、パキスタンに及ぶ。

会場は、ウイングス京都(26日、中京区)▽京都みなみ会館(28日)▽5月8日、南区▽神戸映画資料館(同月25、6日、長田区)。トークイベントや交流会、ミニコンサートなども予定。問い合わせは同映画祭事務局(075・3882・2331、午後7~11時)か、各会場へ。【中村一成】

来月8日まで京都・神戸で上映

読売新聞 京都版

ヒマラヤから地球を考える ドキュメンタリー30本上映

中京など 25日から国際映画祭



ネパール映画「我ら辺境に生きる」の一場面

地球温暖化からチベット問題まで、「ヒマラヤから地球を考える」をテーマにしたドキュメンタリー映画30本を集めた「ヒマラヤ国際映画祭WEST JAP

削減訴え漫画

AN2009」が25日から5月8日まで、京都、神戸の3会場で開かれる。ネパール人の母を持つオランダ人医師の呼びかけで2003年、アムステルダムで始まり、日本では06、08年の東京に続き今回が3回目の開催となる。

映画の舞台はヒマラヤ山

脈のあるブータン、中国、ネパール、インド、パキスタン。

25、26日は中京区のウィングス京都でオープニング・セレモニー、トーク・イベント「田中邦彦監督 ヒマラヤを語る」などがある。28日、5月8日は南区の京都みなみ会館で、貧困の問題を扱った「我ら辺境に生きる」(ネパール、06年)、ヒマラヤの山岳ガイドの物語「運命の高峰」(ニュージーランド、1996年)などを上映する。

神戸の神戸映画資料館でも5月2、6日、作品上映や交流パーティーがある。

1プログラム前売り1000円、当日13000円。詳細はホームページ(<http://himalaya2009.jakou.com>)。問い合わせは運営事務局(075・3302・2331)。

ヒマラヤから地球考えよう

きょうから映画祭、ルポ30作品上映



アルプスほか地域の4倍の気温上昇を記録

ヒマラヤ地域で解けゆく氷河をルポした「メルトダウンー氷河融解」の一場面＝運営事務局提供

朝日新聞 京都版

09 4/25

インド、ネパール、チベットなどヒマラヤ地域の国々の現状を映像作品にした「ヒマラヤ国際映画祭 WEST JAPAN2009」が、25日から京都市内などで開催される。貧困や環境破壊、内戦など負の側面から、伝統的な暮らしや自然の魅力まで、ヒマラヤの歴史や現状を映像で知ることができる。

「地球を考えるヒマラヤから考える」をテーマに、世界各国の映像作家が制作したルポルタージュ作品を紹介する。温暖化の影響で解けるヒマラヤの氷河や、「国民総幸福」政策をとるブータンやチベット遊牧民の伝統的な暮らし、政府軍と戦うネパールの女性ゲリラ、世界最高峰のエベレストに挑む登山家の姿など内容は様々。13日間で30作品が連日上映される。

ヒマラヤ国際映画祭は03年にオランダで始まった。地域の生の姿を伝えるこの映画祭をぜひ日本でもと、ビデオジャーナリストらがNPO法人「ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン」を設立し、06、08年に東京で開催。今回は自主上映企画団体「シネマ・アザデ」との共催で、関西で初の上映を実現した。

上映は25、26日が中京区のウィングス京都、28日、5月8日が南区の京都みなみ会館。その他、5月2、6日は神戸市長田区の神戸映画資料館でも上映される。25、26日はオープニングイベントとして講演会や写真展なども開催される。料金は1プログラム(短編作品は2本上映)13000円、2プログラム22000円、3プログラム33000円。詳細はホームページ(<http://himalaya2009.jakou.com>)。問い合わせは京都みなみ会館(075・6661・3993)へ。(松谷慶子)

神戸新聞 5/2

きょうから

地域紛争や貧困などテーマ ヒマラヤ国際映画祭



映画「我ら辺境に生きる」の一場面

〇〇三年から始め、関西では初開催。

上映されるのは、電気も通らないネパールの山

あいに住む人々の貧困や不安を描いた「我ら辺境に生きる」(〇六年、ネ

パール)や、カシミール問題をとり上げた「安らぎはいずこに?」(〇七年、インド)、インドで

難民として暮らすチベット人の若者たちをとらえた「チベット難民―世代を超えた闘い」(〇二年、日本)など二十五本。

館内で、チベット人写真家の写真展を同時開催。神戸映画資料館〇

78・754・8039

「ヒマラヤ・アーカイブ

・ネーデルランド」が二

(河尻 悟)

神戸

自然や伝統文化などヒマ

ラヤの今を紹介し、地域紛争などの問題を考える

もろう「ヒマラヤ国際映画祭 WEST 200

9」(神戸新聞社後援)

「チベット難民・世代を超えた闘い」の1シーン



ヒマラヤから

ドキュメンタリー映画を通して、ヒマラヤから現代世界の問題について考える「ヒマラヤ国際映画祭 WEST 2009」が26日、神戸市長田区の神戸映画資料館で開かれる。チヨモランマ(エベレスト)のまたがる地域を舞台に、地球温暖化や地域紛争など多彩なテーマで上映される。

オランダのNGO「ヒマラヤ・アーカイブ・ネーデルランド」が03年に開始。今年、関西で初上映することに。「環境」「冒険」「政治

世界の問題考える

長田で映画祭 あすから

人権「文化」をテーマに▽インドで難民として世代を重ねるチベット人をとらえた「チベット難民・世代を超えた闘い」(02年、日本)▽カシミール問題を扱った「安らぎはいずこに?」(07年、インド)などを上映。舞台はネパール、チベット、インド、ブータン、パキスタンに及ぶ。

問い合わせは同資料館(078・754・8039、水・木曜除く午後1〜6時)か、同映画祭事務局(075・3882・2333、午後7〜11時)へ。【中村一成】

「チベット難民・世代を超えた闘い」など上映



あふたがたさ

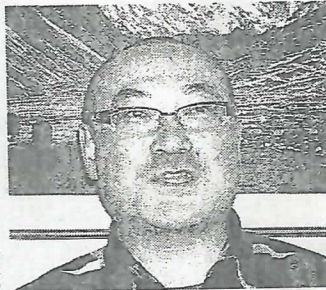
縮図が映し出されている。そうした問題に光を当て、ため、この大型連休中、ヒマラヤを舞台にしたドキュメンタリー映画を集めた「ヒマラヤ国際映画祭」を京都と神戸で開く。これまで東京で二回開かれ、観客として見たが、「多くの人に見てほしい」と関西での初開催に奔走した。



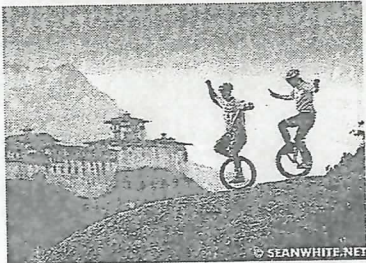
八千級級の山が連なるヒマラヤは東西二千四百キロ、南北二百五十キロに及び、ブータン、中国、ネパール、インド、パキスタン、アフガニスタンにまたがる広大な山脈だ。近年、気候変動による自然災害や乱開発による環境破壊、チベットをめぐる人権問題など、地球上で起こっている諸問題の

ヒマラヤの課題 映画祭で光

会社勤めのかたわら、京都で自主上映会を開いてきた。京都映画史研究家としても知られ、京都映画祭の企画委員になり草創期を支えた。「地球温暖化の影響が最も出ているのがヒマラヤの氷河。解けた水でできた巨大な氷河湖が決壊し、ふもとの村が被害を受けている。その様子を映像で見せることで、対岸の火事ではないことを広めたい」とヒマラヤに目を向けたきつ



シネマ・アザディ代表



「雪龍の国へ!」の一場面

鴉 明浩さん
かけはチベットの人権問題。以前から映画を通して知っていたが、昨春チベット自治区で起きた騒乱への中国政府の対応に疑問を抱き、昨夏京都と大阪でチベット映画の上映会を開いた。人権以外にもヒマラヤ地域でさまざまな問題が表面化していることを知り、今回の企画にこぎつけた。映画祭では全三十作品を五部門に分けて上映。環境部門

では氷河湖問題のほかに、貧困による森林伐採の現状を映像で紹介する。政治・人権部門ではネパールの内戦に身を投じる女性や、インド政府軍とイスラム教分離独立派との闘いなどを取り上げる。全部が堅苦しい映画かといえば、そうではない。冒険部門ではエベレスト登頂に成功した盲目のクライマーや、ブータンの山々を一輪車で駆け巡る若者を描く娯楽作も。チベットとグリーンランドチームとの国際サッカー試合を扱った異色作も楽しめる。「ヒマラヤの人々はさまざまな問題に直面しても、それを乗り越えようとするたくましさがある。それに比べ自分の悩みがいかに小さいかわかるので、元氣のない人や何か悩んでいる人にはぜひ見てほしい」と訴える。(大阪・文化担当 高橋敬治)

ヒマラヤからの真剣なメッセージを映画で

九条大宮



環境や文化、自然など、ヒマラヤのさまざまなテーマを扱ったドキュメンタリー映画25本を上映。2作品1プログラムとし、1日2～3プログラム。作品や日程はホームページ (<http://himalaya2009.jakou.com>) で確認を。

「ヒマラヤ国際映画祭 WEST JAPAN 2009」

4月28日(火)～5月8日(金)
1プログラム1300円、2プログラム2200円、3プログラム3000円
京都みなみ会館(南区西九条東比永城町79)
市バス「九条大宮」下車すぐ ☎075(661)3993(京都みなみ会館)

《ヒマラヤ国際映画祭
WEST JAPAN 2009》

NEW
4/28~5/8



「チベット難民・世代を超えた闘い」(写真)「雷龍の国へ」はか
[当日料金]
1プロ1300円
2プロ2200円
3プロ3000円
[会場]
オプ8・ウイングス京都
神戸映画資料館(P60)
九条1・京都みなみ会館(P86)

ヒマラヤから、世界が見える映画祭

古来からヒマラヤ山脈周辺は、その美しい大自然と様々な民族や文化の聖地としての歴史を持つ。この映画祭では、そんなヒマラヤ山脈を、温暖化の影響による氷河融解で湖底に沈む村を描いた『メルトダウン…』や、チベット難民の解放運動を描いた『チベット難民…』など、多彩な視点で映し出す。ヒマラヤ山脈が生み出す大自然とドラマを満喫できる映画祭である。

《アジア・フィルム・アワード
受賞記念 ~黒沢清ナイト~》

NEW
4/18



「アカリミライ」(海外バージョン)「蜘蛛の巣」(さげ)「蛇の道」(写真)
[当日料金]
2500円均一
[会場]
九条1・京都みなみ会館(P86)

人間の内面に鋭く切りこむ鬼才・黒沢清監督

“アジアのアカデミー賞”こと《アジア・フィルム・アワード》で、本年度の最優秀映画賞を見事受賞した『トウキョウソナタ』。そこで本作の監督、黒沢清の過去作をオールナイトで上映する。中でも注目、同作でもタッグを組む、香川照之主演作『蛇の道』。幼い娘を殺害された父親が、次第に壊れていく姿をリアルに映し出す監督の演出はさすが。鬼才の腕が光る1作だ。

《ケーブルホーク コレクション》

NEW
4/27より



「暗黒街の準備」『カラスの墓標』暗黒街ボブ「春にして君を想う」『プラン9・フロム・アウタースペース』(写真)はか
[当日料金]
一般1400円 大学1200円 高校生以下800円
S1000円
[会場]
九条1・シネ・ヌーヴォ(P77)

異端作を結ぶまさに“ケーブル”な特集

今もおコアなファンが存在する映画配給会社ケーブルホークの作品を集める。中でもエド・ウッド監督の『プラン9…』は、別映画のフィルムを使い回しやダンボール製の墓石など、突っ込みながら観たい爆笑シーン満載の史上最低映画としてカルト的人気を博した一作だ。他の上映作も通好みの異端作ばかり。ケーブルホークが生んだ独特の映像世界を覗いてみて!

朝日 04 4/23 971

ヒマラヤを描く
国際映画祭開催

京都・神戸

ネパール、インド、パキスタン、ブータン、中国を舞台にした記録映画を紹介する「ヒマラヤ国際映画祭 WEST JAPAN」が25日から京都で、5月2日から神戸で始まる。

03年にアムステルダムで始まり、日本では06、08年に東京で開催されたが、関西では初。温暖化の影響を描いた「メルトダウン」氷河融解、パラグライダーで世界の屋根を滑空する「ヒマラヤの空から」のほか、自然や伝統文化、チベット問題を扱った作品など計30本を紹介する。

25、26日に京都市中京区のウイングス京都で開会式、30作品のダイジェスト上映など。28、5月8日、同市南区の京都みなみ会館で、5月2、6日、神戸市長田区の神戸映画資料館で上映される。

1プログラム2作品で1300円。詳細はホームページ(<http://himalaya2009.jakou.com>)

EVENT

『白の経血』

絵師、緊縛師、舞踏家、ドラッグクイーンが登場。会場は九条のストリップ劇場にて。刺激的! 出演/紅苑真優美、妖己、シモズ深雪、黒卵(東夢×松田圭則)、SQ.Yokoほか
前売4,200円 当日4,500円 4:00PM ▶大阪名門九条OS劇場 ☎06-6311-3657 (Mix Room)

CINEMA

ヒマラヤ国際映画祭
WEST JAPAN 2009

~5月8日(金)

“地球を考えるヒマラヤから考える”をコンセプトに、東京でも好評だった映画祭が関西初上陸。難民メンバーからなるチベットVSグリーンランドの画期的なサッカー国際試合に密着した「チベットへのキックオフ」、ヒマラヤの観光地の問題点と対策から観光の今後を模索する「残すのは足あとだけ」、男性中心の僧院が占めるチベットで、多数の尼僧が修行する僧院の日常を追う「尼僧の智慧」など、必ず視野が広がる!(服部香穂里)

詳細はhimalaya2009.jakou.com ▶京都みなみ会館ほか ☎075-382-2331



「チベットの高僧」

MUSIC

『GOING KOBE '09』



'09 4/24 (金) ヘルド朝日

UPDATE

HIMALAYA FILM FESTIVAL

Thirty documentaries featuring the Himalayas will be screened during Himalaya Film Festival West Japan 2009, to be held from Saturday to May 8 in Kyoto and Kobe.



“Meltdown” (2004)

Fifteen are in English or have English subtitles.

Those in English include “Meltdown” (2004), about the effects of global

warming on Himalayan glaciers.

The film is screened with “Into the Thunder Dragon” (2003), which portrays two men traveling in Bhutan on unicycles, on May 2 (noon), 5 (6 p.m.) and 8 (1:45 p.m.) in Kyoto and May 4 (3:10 p.m.) in Kobe.

The venues are Wings Kyoto (Saturday and Sunday) near Shijo subway station, Kyoto Minami Kaikan (April 28-May 8) near Toji Station on the Kintetsu Kyoto Line and Kobe Planet Film Archive (May 2-6) near JR Shin-Nagata Station.

1,300 yen at the door per screening
Visit <himalaya2009.jakou.com> for more information.